

## 国立国会図書館による図書館向けデジタル化資料送信サービスの現状と課題

横山 美咲

本研究の目的は、国立国会図書館が実施している、図書館向けデジタル化資料送信サービス(以下、「図書館送信」)の現状と課題を明らかにするとともに、「図書館送信」の展開を考察し、図書館におけるドキュメント・デリバリー・サービス(以下、DDS)の展開についても考察することである。

図書館は、自館にない資料を、ILLによって他の図書館から借りたり、文献複写によって複写物を入手したりしている。しかし、ILLでは資料が利用者の手元に届くまでに時間がかかることやコストがかかる。そこで、インターネットの普及とともにデジタル化した資料を提供する DDS が普及しはじめた。そのサービスのひとつとして、2014年から国立国会図書館が「図書館送信」を開始した。絶版等で入手困難な資料をデジタル化し、図書館等に送信することで国立国会図書館に来館することなく利用可能になるサービスである。

先行研究としては、「図書館送信」を提供する国立国会図書館の課題などの考察、また参加館にアンケート調査を実施した論考があるものの、提供館、参加館、不参加館という3つの側面からその現状や課題を明らかにするものは管見の限りみられなかった。「図書館送信」の現状や課題を多面的に明らかにし、展開を考察するにはこれら三側面から検討することが必要であると考えたため、本研究では、「図書館送信」提供館、参加館、不参加館の職員に対してインタビュー調査を行った。

インタビュー調査は、「図書館送信」提供館として国立国会図書館、参加館として静岡大学附属図書館、野田市立興風図書館、不参加館として東京外国語大学附属図書館、横須賀市立中央図書館の職員を対象とした。調査項目は、「図書館送信」を始めた目的、参加・不参加の理由、参加する利点、課題や改善点、そして自館が行う DDS についてなどである。

インタビュー調査の結果は、(1)「図書館送信」提供館と参加館、(2)「図書館送信」参加館と不参加館、(3)公共図書館と大学図書館のそれぞれで比較した結果、提供館と参加館の間に「図書館送信」の課題に対する捉え方の齟齬が見られ、参加館と不参加館では「図書館送信」は利用者へのサービス向上につながるという共通認識が明らかになった。そして、図書館間での連携が「図書館送信」をはじめとした DDS の展開に必要であるという考察を行った。今後の課題は、どのような連携が利用者サービスにおいて、利用者が今まで入手することが困難だった資料をより早くコストをかけずに入手できる DDS につながるかという点について、国立国会図書館と大学図書館・公共図書館の連携、大学図書館と公共図書館の連携、大学図書館、公共図書館それぞれの連携という観点からさらに考察していくことである。

(指導教員 呑海 沙織)